# ExtraView セットアップ・ガイド (Windows 用)

2008年2月



# 改定履歴

.

Rev.	Date	Modification
[N]	2007-10-3	ExtraView5.2.2 向け ExtraView セットアップ・ガイド作成
[1]	2007-10-29	Oracle 10gのインストール方法とデータベースの作成方法を追加
[2]	2008-2-21	CD 内の構成に関する説明を変更

# 目次

1.	はじめに	3
2.	準備	4
	インストール関連ファイルのダウンロード	4
	ExtraView.zip の展開	5
3.	Oracle のセットアップ	6
	インストール手順	6
	新規データベースの作成	16
	不要なサービスの停止	39
	Oracle 表領域の作成	40
	Oracle ユーザ(スキーマ)の作成	43
4.	ExtraView ソフトウェアのセットアップ	45
	ExtraView 本体のセットアップ	45
	httpd.conf(Apacheの設定ファイル)の設定	45
	configuration.properties(Tomcat の設定ファイル)の設定	47
	Tomcat の起動パラメータ設定	48
	BatchMail のセットアップ	49
5.	データのインポート	50
	best_data のインポート	50
6.	その他の設定	52
	ExtraView ライセンスの設定	52
	日本環境のデフォルト設定	55
7.	付録	59

ExtraView 環境のバックアップ	
ExtraView 環境のリストア	61

# 1. はじめに

このガイドでは、「ExtraView インストール/構成ガイド」の補足として、Windows プラットフォームで ExtraView を使用する際の Oracle のセットアップ、ExtraView コンフィグレーション・ファイルの設定、データ(dmp ファイル)のインポート、ライセンス設定などについて説明します。このガイドを読む前に、必ず「ExtraView インストール/構成ガイド」をお読みください。

本文中に出現する Apache、Apache Tomcat (以下、Tomcat)、Perl、Java などの周辺アプリケーションについては、必要に応じてインストール済みであることを前提としています。

本文中、操作の説明やコマンドラインの実行例を示している箇所において、Bold で記述している部 分は実際に開発者が入力する文字列を表します。また、*Italic*になっている部分は、実際にコマン ドを入力するとき、必要に応じて適当な文字列に置き換えることを表します。

このガイドについてご不明な点などがございましたら、どうぞご遠慮なく、東陽テクニカのテクニカル・サポート(ss\_support@toyo.co.jp)宛にお問い合わせください。

# 2. 準備

### インストール関連ファイルのダウンロード

東陽テクニカのホームページ(<u>http://www.toyo.co.jp/ss/extraview/</u>)から「インストール関連ファイル(ExtraView.zip)」をダウンロードします。アクセスするためのユーザ名/パスワードをご存じでない場合は、東陽テクニカのテクニカル・サポート(ss\_support@toyo.co.jp)までお問い合わせください。



また、東陽テクニカが提供する ExtraView の CD-ROM をお持ちの場合は、それをお使いいただくこと もできます。

4

### ExtraView.zip の展開

ここでは、ExtraView を C:¥ExtraView¥Tomcat5.0 配下にインストールするものとして説明します。 C:¥ExtraView¥Tomcat5.0 は、Tomcat をインストールしたディレクトリを想定しています。Tomcat の インストールに関しましては、「ExtraView インストール/構成ガイド」をご参照ください。

同様に、Apache については C:¥ExtraView¥Apache2 ディレクトリにインストールしたと想定しています。Apache のインストールに関しましても、「ExtraView インストール/構成ガイド」をご参照ください。

インストール場所がこのガイドに書かれているディレクトリと異なる場合は、実際のインストール場所に置き換えて説明をお読みください。特別な理由がなければ、本書と同じ場所にインストールする ことによって、セットアップ時の余計なトラブル(例えば、Apache や Tomcat の設定ファイルやバッ チファイルは、ファイルパス中の空白文字を認識できない場合があります)を避けることができます。

以降の手順に進む前に、ダウンロードした ExtraView.zip を適当なディレクトリ(例えば、 C:¥ExtraView\_install)に保存し、zip 形式を展開しておきます。展開した結果、次のようになりま す。

ここで示す C:¥ExtraView\_install ディレクトリは、単なる zip ファイルの展開場所であり、 ExtraView のインストール先ではありません。ご注意ください。



なお、東陽テクニカが提供する CD-ROM の Software ディレクトリには、ExtraView.zip がすでに展開 された形で格納されております。つまり、上に示した 3 つのディレクトリ BatchMail、DataBase、 ExtraViewSW が、CD-ROM の Software ディレクトリ直下に存在しています。

# 3. 0racle のセットアップ

# インストール手順

Oracle9i のインストール

ExtraViewは、Oracleデータベースの必要最小限のコンポーネントだけを使用しますので、以降のインストール手順においても必要なコンポーネントだけを選択します。

Oracleのインストーラを起動します。

Oracle9 <i>i</i> Server クストールを開始 CD-RQMを検索 情報を見る	ORACLE 922
	Oracle Oracle Oracle Support

「インストールを開始」を選択します。



「次へ」をクリックします。

Nel Drade Universit Installer: 3+64-04081	altini
ファイルの場所	
2-2.	
インストールする製造ファイルのフル・バスを入力してください。	
100 D Repts # 2 dax 1 utagelproducts (at	eii
インストール先 Onexitーム名とそのフル・バスを入力するね、またけままたしてくださし。 名称  One+Cont2	
1121: Onerectiverent2	*#.
MT ANT 4221-MARAN	Ro Ro
ORACLE	Section of the sectio

インストール先は特に指定がない限り、デフォルトのフォルダで構いません。「次へ」をクリックし ます。



「Oracle9i Database 9.2.0.1.0」にチェックがついていることを確認し、「次へ」をクリックします。



Oracle をインストールする際、お客様が購入したライセンス(Edition)に応じて、Standard Edition か Enterprise Edition のどちらかのインストール・タイプを選択します。なお、Personal Edition は、まったく個人用にスタンドアロン環境で ExtraView 環境を構築する場合を除き、一般的な ExtraView 環境を構築する上で適切な Edition としてはお勧致しません。

インストール・タイプを選択する画面では、Standard Edition、Enterprise Edition のほかに「カ スタム」をクリックすることができます。「カスタム」を選択するには、お客様が Enterprise



Edition の Oracle ライセンスをお持ちである必要があります。もし、お客様がお持ちのライセンスがStandard Edition であるならば、「カスタム」は選択しないようご注意ください。

Morade Universal Installer: F-6x1-2alling	
データベース構成	
必要に応じたプータペースを選択してください。 「汎用目的」 乳用目的のために需要とされた者が軽減まデーリッースをインストールします。	
「トランザクション活躍 トランサクション活躍 トランサクション活躍 しまれた事材増加はデータベースをインストールします。	
「データ・ウェアハウス データ・ウェアハウスために用品たまたた事材構成はデータペースをインストールします。	
9719270234931-4L.8-930880880112844.	Ş
MT NAT TURNAS R5 2	

データベース構成では、「カスタマイズ」を選択します。「次へ」をクリックします。



この画面では、そのまま「次へ」をクリックします。

ExtraView にとって、Oracle Services for Microsoft Transaction Server は不要です。ただし、こ こでそのインストールを拒否することはできないため、後ほどサービスを自動起動しないようにする ことで対処します。

![](_page_13_Picture_1.jpeg)

サマリーが表示されます。「インストール」をクリックします。

Mitrada Ureana Instalan 4930-4	
1221-11	
* Onde Universal Installer 220,120 をインストールや	
	Oracle N
21-0 0000	The complete a business solution
D%	Concession of the local division of the loca
(TA)	1000
	1
このインストール・セッションの日グファイルはスの場所にあります: C.Program FlexConcenter_NegronaliteAction2005-11-04_05-12-25FM aug	$\sim$
17 147 CO21-UNING	ED AND
ORACLE	and the second se

インストールが開始されます。途中で2枚目、3枚目のディスクを要求するダイアログが表示されま すので、指示に従ってディスクを入れ替え、「OK」ボタンをクリックします。インストールが終了し たら、「次へ」をクリックします。

Oracle Net Configuration Asias	art JXE	×
	Oracle Net Configuration Accurationへようこそ。このウールでは、3次の一般 的な構成年齢医調行します。 ディルクトリ法用構成 リスナー構成 キーミング・メンバド構成 また、Oracle Ret Configuration Accurateのが自動的なこ一般的な構成性能で するよう症状することもできます。詳細書計へルラリを押していたさい。	
	1 (二月5日) 法へ後 3)	

Oracle Net Configuration Assistant が起動します。「標準構成の実行」にチェックを入れて、 「次へ」をクリックします。必要な設定を自動で行い、数秒で終了します。

### Oracle10g のインストール

ExtraViewは、Oracleデータベースの必要最小限のコンポーネントだけを使用しますので、以降のインストール手順においても必要なコンポーネントだけを選択します。

Oracle のインストーラを起動します。

B Gracle Database (Def):31-	- ルーインストール方法	
Sec. Sec.		ne
インストール方法のi	異択	
く標準インストール(0 条)(例の3カのみを必要とする) ます。このオプションではファ- のパスワードを使用します。	目的の目的にオプションで、Oracle Database 11gの完全インパ (ル・システムを記述的に説明し、すべてのアータベース・	トールを開発し アカウンドに単一
Onciall - 山の相称(L)	Christmannahattill 1986_1	考年1月- )
インストール・タイプロ	Enderstown Easternal (2018)	
際はモデータペースの作	Add(1204805)	
30-100-9-3-	-28/01 1	
データペース・パスク	- HB 129- MONTAGE	
Colta	- FILSYS SYSTEM, SYSMANN & HOBSING 700 - FILT	The second second
● 拡張インストール(A)		
・セット、製品資源、自然パッ レージ管理などのも後期提供	994Fアカウントに眺めパスワードも構築したり、データベ クアップ、カスタム・インストール、および代替の経営様子 可します。	-2、キャラクタ サジョン(自動ス)
~1.789	#50 (300) 1021-40	RA J
ORACLE		

「拡張インストール」をクリックします。

M Oracle Univer	net bestaller (52)	41-14-917	n in in i			
インスト- Oracle Detai	ール・タイプ( base 10g 10.20	の選択 1.0				
インストール 「Enterprise E Oracle Database ン・2リティオ	・タイプを選択して Edition(E)(656MB) 11g Enterprise Editorit 4 なアプリカーションの	こください。 L ガリッド用に 第行にお買とす Iペースです。	おけまれん目的 れるスケーラビ!	17-9-27 19+, 17+-	89. 28908 793. 8000	11E # 2 # N 20'2
Standard En     Standard	dilon( <u>E)</u> (655MB) 11g Banders Million Alton(E) (636MB) e balen 10gh 20'Crec	a Devient tab	14)EUTIN&7 m 10p6 m824	-998-7. 8 8898684	IPEおよびや十点の シンダル・ユー1	1000LT
「カスタム(C #26324-					BAZLO	
	HURF-Watt	1 (SMW2)	R6-00 2	2~10) G	221-10	EA.)

Oracle をインストールする際、お客様が購入したライセンス(Edition)に応じて、Standard Edition か Enterprise Edition のどちらかのインストール・タイプを選択します。なお、Personal Edition は、まったく個人用にスタンドアロン環境で ExtraView 環境を構築する場合を除き、一般的な ExtraView 環境を構築する上で適切な Edition としてはお勧致しません。

インストール・タイプを選択する画面では、Standard Edition、Enterprise Edition のほかに「カ スタム」をクリックすることができます。「カスタム」を選択するには、お客様が Enterprise Edition の Oracle ライセンスをお持ちである必要があります。もし、お客様がお持ちのライセンス が Standard Edition であるならば、「カスタム」は選択しないようご注意ください。

Wowele Universal Installer: 水ームの計量の指定	E 15 🛽
+ Lowmond	
ホームの評問の指定	
インストール先	
インスキール名、インストール先のフルイスまみ力確認してください。	
64980 [OnDottog_home]	
117.48/ Cheratinproducts 8.2.8x82_2	#16(g)
	and the second
ヘルプ田 インストールされた製品回 」 戻る回 次への	A - IPATERO - ROA
ORACLE	

インストール先は特に指定がない限り、デフォルトのフォルダで構いません。「次へ」をクリックします。

Oracle Universal Installer: 製品図有目前常全体の7.55	φ.		
製品固有の前提条件のチェック			
インストーラにより、世俗中の標準さインストールする観景の たしていることが機能されました。世俗や手動チェックのフラ ります。これらのチェックの責件の詳細ま、項目をクリックし 話してください。	インストールあよび 今のある項目を手板 、ウィンドウの下部	地域の最低更終され で秋日し城田する4 にある米ックスで記	株丁市 東かあ 時古朝
5203	317	ステータス	
オペレーティング・システムの要性を確認中し	日約	B MADE O	E 🖻
サービス・バックの専件を確認中… [4]	640	RANLEL	t de la composition de la comp
		TNIN	伊土
「東州の秋道がと果です。			
オペレーティンジ・システムの保持を確認中 う時した結果(40.41.5.8.51.5.301つ 実際の結果 51 チェックが死了しました。このチェックの含(特)な結果 問題	ar.		
チェックが死了しました。このチェックの全部的な起来 開墾 ヘルプ田 / インストールされた製品の / 菜の面	an a		10

製品固有の前提条件を満たしていることが検証されたら、「次へ」をクリックします。

Oracle Universal Installer: 株式オフリンの運営	E15 😫
構成オプションの選択	
必要に応じた機成を運用してください。データベースを作成するか、データベース 自動ストレージ管理(ABMを構成するかを選択できます。また、データベースの構 をインストールして、値から任意のデータベースを構成することもできます。	- ファイル記録Mの提供用に FHICを開なリフトウェアのみ
* 7-3-1-2014(S)	
「自動ストレージ要連体を約の構成後	
AGHSYSHX7-FAMORE	
KONEVENING-Y PARED	
「データペース・ソフトウェアのみイジストール団」	
へんけ田   インストールされた製品の   良るの はっひょう	1227-10-1 -100-1
ORACLE	and the second se

構成オプションの選択では、「データベースの作成」を選択します。「次へ」をクリックします。

愛Oracle Oniversal Installer: データペース構成の運動	E 17 😫
データベース構成の選択	
作成するデータベースのタイプを雇用してくださし。	
( 3048950)	
洗剤量的で副計された防衛データベース。 「 トランザクション処理(①)	
土まのトランザクションなら様子をアクリケーション間に算道とまれた必要アークペース。 「「「」」」、ゆ、ついつつの	
テース・ウェアハウス(ロ) テース・ウェアハウス・アプリラーション県に集身とされた視識テース・	
* JF48/0	
ヘルプロ インストールされた製品の 第8回 法への 1 インス	
ORACLE	

データベース構成では、「詳細」を選択します。「次へ」をクリックします。

![](_page_18_Picture_0.jpeg)

サマリーが表示されます。「インストール」をクリックします。

Oracle Universal Installer: 45/3116	
インストール	
Oracle Database 10g10.201.0 € 4 ⊃ 2 F → ik⊕	
# 4523-6+78.	Ovacia Database tog
#2549+TF.	· Vetaslination at every layer
MdEAD+CF.	- Pulicy based provisioning - Personne proving
7746%Clondelproduct/0.20th_2CKWLLT0.21. 1%	_
(インストールの中土協一)	
このインストール・セッションのログファイムは次の場所にあります C Yrogan FlenOraceim entorylogi/install.close2007-10-25-38.45	16anting
NUTE   PURPHENDED   CEDE	
ORACLE	

インストールが開始されます。途中で2枚目、3枚目のディスクを要求するダイアログが表示されま すので、指示に従ってディスクを入れ替え、「OK」ボタンをクリックします。インストールが終了し たら、「次へ」をクリックします。

コンフィギュレーション・アシン	スタント	
かりコンフィギュレーション・アシスタントにより、	前に満択したコンボーキシー	-SHMANEMANIT.
0-16	ステータス	217
Oracle Database 13g		
Craste Net Configuration Assistant	成功しました	「御殿」
Diacle Database Configuration Assistant	処理中です。	相見
III IBQL*Flus Configuration Assistant	保留中です。	オプション
		#1856 <b>#±</b> @
NB(2.6 - CD5)2C.Program FilestOracletineenford	logs/instal/ctions2007-10-	25_09-45-16AMJeg生命版)
		14
コンフィギュレーション・アンスタンドfittade Net(	Configuration Assistant 374	ロシーボレた。

Oracle Net Configuration Assistant が起動します。必要な設定を自動で行い、数秒で終了します。

# 新規データベースの作成

#### Oracle9i のデータペース作成

「Oracle Net Configuration Assistant: ようこそ」画面で「次へ」をクリックすると、Database Configuration Assistant が起動します。Oracle がすでにインストールされている環境に対して ExtraView をセットアップする場合は、単独で Database Configuration Assistant を起動し、ここ からの手順を実行します。

もし、データベース・サーバ上にすでにデータベースが構築されている場合は、別の新規データベー スを作成するのではなく、ExtraView が使用するための Oracle ユーザ(スキーマ)を新規に作成し てください。この場合は、「Oracle 表領域の作成」、「Oracle ユーザ(スキーマ)の作成」、 「configuration.properties(Tomcat の設定ファイル)の設定」において既存の SID を使用するこ とになります。Oracle ユーザ(スキーマ)の作成手順については、後述の「Oracle ユーザ(スキー マ)の作成」をご参照ください。

Distriction Configuration Assor	nt: \$228	_III ×I
	Drackety - 94 - 20 Outsians Configuration Assistant Devidence Configuration Assistant () T - 94 - 20 () Successful	☆~ 第二のデーター-スのデーター-ス・オナ プラレートの推想のできます。
the old		Row ( <u>Row</u> )

「次へ」をクリックします。

Distance Configuration Ave	stast. 35+21/9 - #0	
	rrする時作を着いしてください。 * データベースの作品 パー・スペースパロティータベース・スパッシング 作品 ポー・スペースパロディ デンプレートの指導	
	( <u>- 1858)</u> x~9 >)	

ステップ1/9:操作:「データベースの作成」を選択し、「次へ」をクリックします。

	a train a second of the second second second	TO DESIGN DECISION
 灌掘	デノブレート名	デーヨ・ファイルを含
(C)	Deta Warehouse	(2),1
	General Puspose	120, 1
0	New Database	LUG
	Transaction Processme	(2), (

ステップ 2/9:データベース・テンプレート:「New Database」を選択し、「次へ」をクリックします。

Detebase Condissents	** Annition, ステラフ 305データペース1 Dackdデータペー す。 グローバル・データ データペース13, 1	379 データイース 副別 1985年後に て (花水 6 カネー (新知) ご name dam ペース名 [m] 2011 D Orac MH (1/23/	18日 MF形式のグロードル・データイース3 スピよって参照されており、インスタン	57-10-2013 112. 0xxx/2742
	:>r=1=saa9∓#3 au	e4 2007:42=-270#94	シスタンスから一動ご器制作れています	
	7_)			D

ステップ 3/9:データベース識別情報:「グローバル・データベース名」を入力し(自動的に 「SID」にも同じ名が入ります)、「次へ」をクリックします。

ここで入力したグローバル・データベース名(データベース識別子、すなわち SID)は、後述の「Oracle 表領域の作成」、「Oracle ユーザ(スキーマ)の作成」、「configuration.properties (Tomcat の設定ファイル)の設定」で使用します。忘れないよう、記録しておいてください。上の例では「ev」と入力しています。

Database Configuration A	ninfant, 23534/8 - 7-84-20	04+F9-5 <b>8</b> 6	
	Uスナー このデータベースを登録するUスナーき * すべてのリスナーに、このデータ - 運動されたUスナーのみに、この 世代ではでいてたー しまでたらら に回ていたり	(新たしてくださ)、4 キースを登録 データイースを登録 	
- 12. h - 14.7	j	4 #5/8/ 3//6/ 3	) #70

ステップ 4/9:データベースのネットワーク構成:「すべてのリスナーに、このデータベースを登録」を選択し、「次へ」をクリックします。

なお、Net Configuration Assistant を使って複数のリスナーを登録していない場合、「ステップ 4/9:データベースのネットワーク構成」のページは表示されず、以降のページ番号が 1 つずつずれ ます。

B Betabase Configuration A	oistant、ステック570、データベース・オグジョン	
	テータペース・オプション れえのムレスクリプト	
	7 - 91 - ACIDITY SUBJECTION OF SUBJECT	17-31-2-772
ton	) ( #5@ (#~	8) ) M7(8)

ステップ 5/9:データベース・オプション:「データベース・オプション」タブの、「標準データ ベース・オプション」をクリックします。

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●	2	×
データイースで使用するた	的に構成する標準データペー ションボデータイースにインス	ス・オナノミンを選択し
AT. Dracin JVM	1.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.1	
C Oracle interMedia		
P Oracle Text		
Chacle XML DB	スタマイズ、	
	_	
	(or ~13)	

「Oracle Text」だけチェックし、その他のオプションはチェックを外してください。

オプションのチェックを外す際に、「表領域も削除しますか」というダイアログが現れるオプション があります。そのようなダイアログが表示された場合は、「はい」を選択してください。

	テータペース・オナルョン カスタレビス 気力を	
2	データース的問題に満行するSQLTクリゴトを加発してください。スクリ 第1731ます。 ● 第17するスクリゴトがありません。 「 はのスクリゴトを開行してください。	プトはおけにリストされる場合で
	-200714	
I.		
		*
		*
	10.21 (10.21)	
		77-16-0位置大利

「カスタム・スクリプト」タブでは、「実行するスクリプトがありません」にチェックがついている ことを確認します。

両方のタブが確認できたら、「次へ」をクリックしてください。

R Database Configuration	Anistant, ステップ579 - テータペース自殺オブション	
	デフォルトのゲーターース問題を一ドを確認してください。 ● 第四ケーバー・モード をつうていた機能に対して、ゲーターースはそのクライアントのみを思想 すったりための時代できた。 第次を行う場合に、このモードを使用します。 「 井和サーバー・モード いたのかのちらアアントがデーターースに認知してられたレントスのグラー サージの時時にデーターやスに確認していたプログレースを対応的など していため、しのみらら見たケーバー機能が使用可能にないます。	第73時代の必要定時に出てた。 第4-70日代で高の時代に応じ たまた時にます。多数のユー 前前すられまここのモードを使用 1110日代・1501-3006年
	4 #\$48) (	<u>∽⊛∋)</u> #7@

ステップ 6/9:データベース接続オプション:「専用サーバー・モード」をチェックし、「次へ」 をクリックします。

~	C GR Owner CHRITCHILLOU	- ITER MEDITIERE	10		
	<b>データホース・ライブ</b> (FEU-COHDERF.)		[i∓−3(t)±7()	27	
	* 117.944 ###======	- 193		(MD	
1	192010+19512	24	1	MB	-
140	Java51-AL	-	1	MB	•
	5-9-7-10	3		MB	+
	PGA	54	1	ME	-
2 -	Cash CRATS. AU.	7合計: 144 MB 40MB(XOracle)(70)( 増合)。	CLOTICELECA	BØ+(∃+-	-3077ail+84

ステップ 7/9:初期化パラメータ:

「メモリー」タブ:各値とも特に値を変更せず、デフォルト値をそのまま使用します。

B Database Configuration A	wiidant、ステップ770: 招間化オウメータ	
	FEU-	アーカイゴ ティング・システムの言語は パループを結れてきます。
	***CONUME-15x-9.)	27-00-020 <b>30.2</b> 90.)
ta	) (#5@ *	(BTN)

「キャラクタ・セット」タブ:「次のキャラクタ・セットから選択」で、「UTF8」を選択します。 「各国語キャラクタ・セット」には、「UTF8」を選択します。

「DB のサイズ指定」「ファイルの位置」「アーカイブ」タブは特に変更せず、デフォルト値を使用 します。

Batabour Configuration /	windowt. ステップ770 - 招酬批パラメータ	
	#80- #8500 800 [800932083 データンパレッシュ 副当てたりのこけがらなけのの多く後の カエデーシットンパレットの最大量を形式してひたい 5.250 たします。 ソート後期のウサイズ 第34280 (164) ●	ファイルの1000 アーカイゴ やす。テータベースのテータ・プロック・サイ ほを見ますると、大量ソートの42の43年01
12 million (12 million)	***CONTINE(15x-0.)	22-00.000.000.000.000.000.000.000.000.00
	)	(BTN (E 18~tc) 190

Batabase Configuration A	oristant. ステップ770 - 約開き	2103-5	
	またりー 本455544 和助しパラメータ・ファイル名 マサーバー・パラメータ・ファ 時代、て名約5411(ワメータ・ファ	DEFINITION CONTRACTOR CONTRACTOR DEACLE DATENATION DE NAMENON (A-Index 2011) INTRACTOR DE NAMENON TA INDEX 2011) INTRACTOR DE NAMENON TA INDEX 2011) INTRACTOR DE NAMENON (DEACLE BASCRIGGONICE NAMENON (DEACLE BASCRIGGONICE NAMENON (DEACLE BASCRIGGONICE NAMENON (DEACLE BASCRIGGONICE NAMENON	P-third eventors entertioneses (19,4-30) FF-20240 (9,4-20) FF-20240 (9,4-2) (4-2) (9-7) (9-7) (4-2) (9-7) (9-7) (4-2) (9-7) (9-7) (4-2) (9-7) (9-7) (4-2) (9-7) (9
ton ) and	тасаниц:15x-3.)	< 200 (*	27-(14200000000)

	#80- #6559-tool 16659 4518#	3+1A-000 7-1115
1.1	アーカイゴ・ログーモードでデータベースを開行するかどう	の情報報してくだきも
	□ アーカイブ・ログ・モード	
South Bar	Pemr-nrd	
	アーカイゴ・ログのファイル名フォーマット 同時市日	
	アーカイブ・ログ・ファイルを料率のディスク上の補助の	位置に書き込むことをお願めします。
	DOLATIE BATENe shite DO MANENestice	
140		
All and a second se		
9.	1	
1.00		
	- Hereiter	1010501910
	***CONTINE(15x-9.)	25-11-20位置度

B Database Configuration As	intent, ステップ87日:データペース記録展	
日本 中国 Controlling 中国 データ・ファイル 中国 ールバック・セラッC小 中国 REDOログ・グループ	<ul> <li>データベース記憶域</li> <li>「データベース記憶域</li> <li>「データベース記憶域」ページから、データベース作成用の) 定できます。このページには、ジリーおよびサマリー・ビュー( され、次のクデジェクトを表示および変更できます。</li> <li>* #約7-700</li> <li>・ 1000 デジゲル</li> <li>・ 1000 デジケル</li> <li>・ 1000 デジケル</li> <li>・ 1000 デジル</li> </ul>	2億場パラメータを指 複数列リスト)が表示 レダから「歳 <b>加</b> ]をり 切フォルダからオラ ータ・ファイル、表情雑 。ソード・テンプレート
IRE ARE		20100000000.
	() ■5(B) (次へ)	8 ) 470

ステップ8/9:データベース記憶域:特に変更するものはありません。「次へ」をクリックします。

	治のデータベース作成オナションのら運動して(ださい	
	マテータベースの行政 - 「データベース・デンプレートないで保存 名称 記録	
F	マザー3-5-2月前に20日日の生成 単語先 ディレクトリ、C Rone Window WerPatr	<u>95</u>
K		

ステップ 9/9:作成オプション:「データベースの作成」と「データベース作成スクリプトの作成」 をチェックし、「終了」をクリックします。

サマリー		
の操作が行われます。 データベース名 ev でう D¥oracle¥admin¥ev¥a	ータペースを作成します。 ipts*1こおけるデータペース作成に関するスクリプトを生成し、	ŧŢ.
このテン	レートを使用して、カスタマイズされたデータペースを作成し	ŧt.
共通オプショ	,	
7-12-5-4	B 10-2	
Example Schemas	talse	
Oracle Data Mining	false	
Oracle interMedia	falze	
Oracle JVM	talse	
Oracle Label Security	false	
Oracle OLAP	falpe	
Oracle Spatial	false	
Oracle Text	true	
Oracle Ultra Search	false	
Oracle XML DB	false	
初期化パラメ	-9	
名前		
aq_im_processes	INDACLE DASENULTING MANERA	
packground_dump_dest	DISHOLE_DESCRIPTION	ioump
companions		HTML形式で操作

「サマリー」が表示されます。「OK」をクリックします。

![](_page_29_Picture_2.jpeg)

すぐに、スクリプトが作成されたことを知らせるダイアログが現れます。「OK」をクリックします。

![](_page_30_Picture_0.jpeg)

Oracle インスタンスの作成が始まります。これには時間がかかる場合があります。

Database Configuration Assis	tant	×
データベースの作成が売了しまし さい。	た。詳細は、DiforacleYadminWevYcreateでログ・ファイルを参照してく	だ
データベース情報 グローバル・データベース名 システム識別子(SID) サーバー・バラメータ・ファイル	ev ev & Divaracleivara921vdatabaselvspfileev.ora	
- バスワードの変更		
セキュリティの理由により、新作 なければなりません。	見データベースのSYSおよこASYSTEMアカウントのパスワードを指定し	
SYS/1スワード:	**	
SYSバスワードの確認	**	
SYSTEM/スワード:	**	
SYSTEMパスワードの確認	**	
注意、SYS、SYSTEM、DBSNM ています。「バスワード管理」す るかデータペース・アカウントを みロックを解除します。オラクバ 変更することを強いた意めしま	Pおよじ移500TTを除くすべてのデータペース・アカウントがロックされ タノをクリックム。ロックされているアカウントすべてのリストを表示す 管理します。「パスワード管理」ウィンドウから、使用するアカウントの い社まアカウントのロックを解釈した直徹にデフォルトのパスワードを す。	
	パスワード管理。)	
	(終了)	

データベースの作成が完了すると、SYS および SYSTEM アカウントのパスワードを指定するダイアロ グが現れます。それぞれパスワードを入力し、「終了」をクリックしてください。このとき SYSTEM のパスワードとして入力した値は、後ほど「Oracle 表領域の作成」、「Oracle ユーザ(スキーマ) の作成」、「5. データのインポート」で使用しますので、必ず記録しておいてください。

#### Oracle10g のデータペース作成

「Oracle Universal Installer: コンフィギュレーション・アシスタント」画面で「次へ」をクリ ックすると、データベース・コンフィギュレーション・アシスタントが起動します。Oracle がすで にインストールされている環境に対して ExtraView をセットアップする場合は、単独でデータベー ス・コンフィギュレーション・アシスタントを起動し、ここからの手順を実行します。

もし、データベース・サーバ上にすでにデータベースが構築されている場合は、別の新規データベー スを作成するのではなく、ExtraView が使用するための Oracle ユーザ(スキーマ)を新規に作成し てください。この場合は、「Oracle 表領域の作成」、「Oracle ユーザ(スキーマ)の作成」、 「configuration.properties(Tomcat の設定ファイル)の設定」において既存の SID を使用するこ とになります。Oracle ユーザ(スキーマ)の作成手順については、後述の「Oracle ユーザ(スキー マ)の作成」をご参照ください。

DOM: N	(年にゴレート)	データファイルを含める
0	カスカム・データホース	11.12
1.1	F-9+9*7/192	131.1
1	トランザクション結構	120.1
5	3.8	(3),1

ステップ 1/11:データベース・テンプレート:「カスタム・データベース」を選択し、「次へ」を クリックします。

₩7-98-2-107(8s	レーション・アラスタント、	ステップ2/11 データペース講習情報	
	Otacleデータペーフ に認知されます。	12、一般的にhome domainをいう形式のグロード	ね・データベース名で一重
	グローバル・データ	1-25 10	
_	データペースは1つ テム戦制子(B4D)に、	は上のOndeインスタンスによって参援されており、 よって、このコンピュータ上の他のインスタンスから	インスタンスはOracleシス 5一面に最初されています。
	80.	ev.	
	4.J	< 200 (ito	<u>w &gt;)</u>

ステップ 2/11:データベース識別情報:「グローバル・データベース名」を入力し(自動的に 「SID」にも同じ名が入ります)、「次へ」をクリックします。

ここで入力したグローバル・データベース名(データベース識別子、すなわち SID)は、後述の「Oracle 表領域の作成」、「Oracle ユーザ(スキーマ)の作成」、「configuration.properties (Tomcat の設定ファイル)の設定」で使用します。忘れないよう、記録しておいてください。上の例では「ev」と入力しています。

500 010 214	inacleデー3ペース以上、Oracle E the Entamine Manager Databa V敏速に使用する敏速オプション	コムシアシンシ interprise Manager Grid Controlを注意して属中的 se Casholを活動してローカルで審確できます。 で最好してください。	10日日 20〒-タペー
	Enterprise Manager#IBITL_C	データベース素積成	
	**-34-191:0HCH	ヤリを見出します	
	管理サービス	【コージョンドが見omのません。 ···)	
and a second	■データペース管理にOntern	e Cashoiを使用します	
	<ul> <li>電子メーム:飲知時効と 出注メーム(同時7000-11- 電子ターム・アドレス)</li> <li>日治バックアップ時間( パックアップ開始(時))</li> <li>(注::::::::::::::::::::::::::::::::::::</li></ul>	02 - 0 00 - 0 AM F PM	
na		< Rog ( <u>2000</u> )	

ステップ 3/11:管理オプション:各値とも特に値を変更せず、デフォルト値をそのまま使用します。

バスワード: 「	•	
(100/029-Feas	8	
コーザール	153,2-1	10.00-30MEE
515		
CODONNE		
OVOMINI		
-		

ステップ 4/11:データベース資格証明:「すべてのアカウントに対して同じパスワードを使用」を 選択し、パスワードを入力します。「別のパスワードを使用」を選択して、各アカウントに異なるパ スワードを設定することも可能です。

1 7-9K-3-107/F1	レージョン・アシスタント、ステップ5/11 記憶層オブジョン	E 🗆 😫
	データベースに使用する記録相×カニズムを選択してく ■ ファイルシステム	Eav.
	データマース記録期にフライルシステムを使用しま 「自動ストレージ管理により、データマース記録地の 自動ストレージ管理により、データマース記録地の トが構造しされていな「フォーマンスが何止とします。 セットを指定してASMディスク・グループされ広す します。	T。 客様が複数化され、データベース・レイアウ このオゴションを使用するには、ディスク・ ちか、既存のASBHディスク・グループを指定
	「RAMFINEス 自動ストレージ管理を決制してあらず、クラスタ・ は、Real Application Clusters (RAC)データイースに またはずりュームで特定できます。データベースに よびログ・ファイルごとにCRAMFINEスを10年の「 「NAMFINEス」	ファイルシステムが使用可能ではない場合 必要な共有記性時を、RAWOIーティション 物時予知のデータファイル、東脚ファイルお ないしておくど養があります。
	ut j	060 ( <u>x~06)</u> 87(6)

ステップ 5/11:記憶域オプション:「ファイルシステム」を選択します。

■7-98-3-30248a1	-949-292851, 25920/11	データペース・ファイルの位置	
	作校するゲーラペース・ファイ)	いの位置を推定	
	* テンプレートのテータペース	2・ファイル位置を使用	
	「すべてのデータペース・ファ	一小に対して共通の位置を通用	
	#-3-5-2-2+2+110145	2	217-1
	Cracio Manages Files/DEE	n .	
	7-37396		2017
Langer at	REDGOS/LLOHIBS+	(109)第代二)	
	() データペース・ファイル し、記憶層ページを使用	に移り位置を改定する場合は、 有法のオプシ して登位置を確定します。	eンのい 守行のを援制
		G	
ten oa	d	< #5@	) <u>*70</u> )

ステップ 6/11:データベース・ファイルの位置:ファイル位置を変更する必要がなければ、デフォルト値をそのまま使用します。

₩7-9K-X-1074¥±L	-949-792851.25877/11 986	19 <b>m</b> as	
	データベースのリカバリ・オブションの シフラッシュ・リカバリ機械の激定 これは、すべてのバックアップあよび Enterprise Managerを使用した自動 たの、データベース・ファイルとりが をお思めします。 コラッシュ・リカバリ機能 フラッシュ・リカバリ機能 フラッシュ・リカバリ機能 アーカイプ解動に	御史 RUカバレ時かめデジォルトとして書 (ックアップにも必要です。データ目 ロバリ・ファイルを物理的に異なるう  0RACLE_BASE;ifuch_moore  2048     フーカイゴ・モード・パラメ・	manます。また。 続とパフォーマンスの ネスクロ記載すること 使用 (MB*) うび服用
(	•	( <u>&lt; R50</u> 3~00	29-74-00 <b>8229.</b> ) 2) <b>2</b> 7(8)

ステップ7/11:リカバリ構成:特に変更せず、デフォルト値をそのまま使用します。

	データイースで使用するために構成するコ ポーネントのある表情感を用意してくださ は、インストールされていないか、選択さ	ンボーキントを選択し し、 使用席上として# れていないコンボーオ	てください。神脏させるコン 転歩されているコンポーネント いントに放在しています。
-	P Oracle Data Mining	BYSAUK	e
	P Oracle Test	BYSMUN	
	P Oracle OLAP	SYSAUX	
	🖓 Oracle Spatial	SVEALO	*
	Concentration (Search	EYE44.81	
	P Oracle Label Security	BYSTEM	
<b>1</b>	〒サンダル・スキッマ	EVE#A.W.	
	PEnterphice ManagerU#UE-U	EYSALK	
	#" AETOOrarie Datavase Estensions	TTT ALT	
			データペース・コンボーキント

ステップ 8/11:データベース・コンテンツ:「データベース・コンポーネント」タブの、「標準 データベース・コンポーネント」をクリックします。

アータペースでの使用の てください。 神にこれら ら着めします。これらの ポーネントを運動できな	ために構成する標 のコンボーネント ロンボーネントの にくなる場合が寄り	単プーラペ・ をデーラペ・ 位代さん(191) をす。	-ストロンボーネントを重用し -スにインストールすることを たると、約ページの一部のコン
Cratis JVM	Parates -		
Craste XML DB	(arness	-	1787-12

全てのオプションのチェックを外してください。

オプションのチェックを外す際に、「表領域も削除しますか」というダイアログが現れるオプション があります。そのようなダイアログが表示された場合は、「はい」を選択してください。

-	アース・スモ決用するために構成する ポーネントのある表達純を用意してくだ	コンボーキントを運動 さい。 使用禁止として	してくださしい 神 (表示されていらコ	住させる コン ンポーネント
7	は、インストールされていないか、潮沢	antivitour-	オントに始存してい	127.
	T OVATIONA PITTO	CYG40		
	E Grade Test	EVSW.N		
	E Oracle CLAP	EYSALM.	-	
	Concertinent in	EVEN.SI		
	E Oracistutta Baarch	EY64.81		
	Conscie Label Security	EVETEN		
<b>1</b>	デサングル・スキーマ	EVEN.W.		
	Genterprise ManagerU#S1EU	EVEA.R		
8	P AETOORAN Datasan Education	ETSH/R	1	
			データベース・コ	ンポーキント

「データベース・コンポーネント」タブでは、「Enterprise Manager リポジトリ」のみチェックし、 その他のオプションはチェックを外してください。

	データペース・コンギーキント カスタム・スクリプト	
	ゲータペース作成出に開行するRQLスクリプトを推定してください。2 される場所で開行されます。	クリナトにおけていスト
2	※実行するスクリゴトはありません。 「200スクリゴトを実行	
	2003)本	
- 1		
Ē		+
		+
	( (STR)   HTR.)	
		ファイルの位置実施

「カスタム・スクリプト」タブでは、「実行するスクリプトがありません」にチェックがついている ことを確認します。 両方のタブが確認できたら、「次へ」をクリックしてください。

7-98-1-1527810-	945-792551,25979/11	前期たれラメータ		
	XEU- 04	ス市正 キャラク	· * セット - 耕株モー	R.
	* 御弟 - 会計物理メモリーの書 創造 40 1 メモリー	(古てメモリーを創出て の数をあ示。)	(735 MG)	
	「カスタム 共和メモリー管理 804サイズ PG4サイズ	4 mm * 11 [180	n 	
	Otadeで使用するメモリー し お针メモリーには、 ルトが含まれますの	の会計 40MBのCrackeプロセン 存在する場合。	1.0747813980499	ータのデフ
	***C(04000112/19.4-8)			
ten ) nad	3	2 <b>H</b>	( = 40-th) (BC	图7(E)

メモリー サイズ夜空 キャラクタ・セット 福橋モード
プロックは、割当てといて使用される記憶場の最小単位です。一度データベースが小成される と、変更できません。 プロック・サイズ 19192 * バイト こがデータベースに開始に接続可能なオペレーティング・システム・ユーザー・プロセスの報 器を加定してください、このパラメータの増加なにおにする必要定場からますが1ックグラウンド プロセス酸になどきューザー・プロセス間に1% プロセス酸 150 2

ステップ 9/11:初期化パラメータ:

「メモリー」「サイズ指定」タブは特に値を変更せず、デフォルト値を使用します。

![](_page_37_Figure_5.jpeg)

	¥#U- #	17382	++328-245	捕縛モード
	データベース・キャラクタ	· e>t		
	「デコォルト女説明			
_	このデータベースのデフ ムの言語訳知に基づいて	オルトのキャ にします。 JAII	5クタ・ゼッ 村本 この (11,85	オペレーティング・システ
	CUnesew(4L32UTFIDE)	tH.		
- B	キャラクタ・セットをい さます。	inicode/WL32U	TFOREBREFSE. MB	の単語ダルーゴを指定の
40	* 次のキャラクタ・セット	2-6 IER		
-	9-9-2-2-++50	ラ・セット	UTF8 - Unicade 3.0 (	/TF-KA用キャラクタ ↑
7	10000キャラクタ・セット	UTF8-Unic	ode 3.0 UTF-RL册卡+	509 to y h (CER) 8
1	デフォルト金譜	848		
	デフィルトの日日まで	RE		
		177.		
	1-200000010/1914-9			

「キャラクタ・セット」タブ:「次のキャラクタ・セットから選択」で、「UTF8 Unicode 3.0 UTF-8 汎用キャラクタ・セット」を選択します。「各国語キャラクタ・セット」には、「UTF8 Unicode 3.0 UTF-8 汎用キャラクタ・セット」を選択します。

9.40- t	バス市町	++5231201	相称モード
デフォルトのデータベースボ	KB-F-583	観光してください。	
第期日サーバー・モード 各クライアント接称に対し スを割り詰てます。クライ ペースに対して具時間にあ	/て、データベ (アント植物の)  お養求を行う	ースはそのクライアントの 会計数が少ない場合、また 場合に、このモードを使用	のみを処理する専用のリソ にはクライアントがデータ 目します。
「共有サーバー・モード しくつかのクライアント様 ステム・リソースを効果的	勝ち、リンー に利用し、カ	スのデータベース創造でつ つちくのユーザーがデータ	ゲールを共有しています。 ハーマに同時期時するお
がある場合には、このモー	下を使用しま	T. Oracle#₩⇒-11-8	相比が相比にされます。
がある場合には、このモー 共有サーバーでは、インス 共有サーバー	- Fを使用しま しタンスの転用	す。Oracle#和サーバー 相に作成するサーバー・:	NEU-ADLEれます。 パロセスの観を推定します。
がある場合には、このモー 共有サーバーでは、インス 共有サーバー	- F 20100-3	7. Once##9-11-6 ##2566789-10-13 #8556789-10-13	BEURDLERLます。 たロセスの秋を推定します。

「接続モード」タブ:「専用サーバー・モード」をチェックします。

すべてのタブが確認できたら、「次へ」をクリックしてください。

デーラペース・コンフィギュレーン	ローアシスタント、ステップ10/11 - データベース記憶線	
B	データベース記憶域	
● □ ★14M ● □ データファイル ● □ REDOログ・グループ	「データベース設備場」ページから、データペース作成用の記憶場(つ) す。このページには、ついーおよびサマリー・ビュー(1回路別リスト)が ジェクトを表示力よび実更できます。	メータを指定できま 表示され、沈のオブ
	<ul> <li>・ 制師ファイル</li> <li>・ 表神敏</li> <li>・ データファイル</li> <li>・ ロールパック・セグメント</li> <li>・ FEED0ログ・グルーゴ</li> </ul>	
	接しいオブジェクトを作成するには、オブジェクト・タイプのフォルダか クします。オブジェクトを規算すなには、オブジェクト・タイプのフォル を選択して、「産業」をクリックします。	ら <b>「作成」</b> ぎクリッ ダからオブジェクト
	●数 データファイルを含むデータペースのテンゴレートを運行した場合は 美婦婦またはロールバック・セグメントを通知または非難できません。こ レートを選択すると、26のものが変更できます。	む データファイル、 のタイプのテンプ
	<ul> <li>データファイルの場所先</li> <li>制造ファイルまたはログ・ブルーブ</li> </ul>	
(tit) Hite)		ファイルの位置実計
tea ( ast	< Rom (#~0)	) <b>R</b> 7(1)

ステップ 10/11:データベース記憶域:特に変更するものはありません。「次へ」をクリックします。

■7-9K-3-1074¥±b-	140-70385F, 355711/11 - Austroaco	
	データベース作成オブションを確認してください マデータベースの作成 「データベース・テンプレートとして保存 名称: [== 取味	
	マテータペース的ポスクリプトの生活 採作法 ディレクトリ: [Clurac wproduct) II.2 Datminie/ScriptS	<u>es.</u>
(	<b>#50</b>	( <u>R76</u> )

36

ステップ 11/11:作成オプション:「データベースの作成」と「データベース作成スクリプトの生成」をチェックし、「完了」をクリックします。

の操作のサインれます データベース"ev"を作成します。 'Citoraclelproducti10.2.0%dmin	leviacripts"にデータベース作成スクリ	ブトを主成します。
データベースの課題		
カスタ <sup>このアンプレートを使</sup> 共通オプション	<b>・                                    </b>	<b>一ス</b> スを作成します。
オブション	運搬的车	
Oracle JVM	false	
Oracle Data Mining	false	
Oracle Text	false	
Oracle XML DB	false	
Oracle interMedia	false	
Oracle OLAP	false	
Oracle Spatial	faise	
Oracle Ultra Search	false	
Oracle Label Security	false	
		(HTMLBat CIRT

「確認」が表示されます。「OK」をクリックします。

![](_page_40_Picture_3.jpeg)

すぐに、スクリプトが作成されたことを知らせるダイアログが現れます。「OK」をクリックします。

![](_page_41_Picture_0.jpeg)

Oracle インスタンスの作成が始まります。これには時間がかかる場合があります。

■データペース・コンフィギュレーション・アシスタント 🛛
データベースの作成が完了しました。詳細は、C:loraclelproduct10.2.0hdb_2½fgtoollogs\dbca\ev でログ・ファイルを参照してください。
データベース情報: グローバル・データベース名: ev システム識別子(SID): ev サーバー・パラメータ・ファイル名: C:toracletproduct10.2.0idb_2tdatabasetspflieev.ora
Database ControlのURLはhttp://EDI-NAKAMURA.toyo.local:1158/emです
注意: SYS、SYSTEM、DBSNMPおよびSYSMAN以外のすべてのデータベース・アカウントは ロックされています。ロックされたアカウントの完全なリストを表示、またはデータベース・ア カウント(DBSNMPとSYSMAN録く)を管理するには、「パスワード管理」ボタンを選択してくだ さい。「パスワード管理」ウィンドウで、使用するアカウントのみ、ロックを解除します。アカ ウントのロック解除後すぐに、デフォルトのパスワードを変更することをお落めします。
パスワード管理…)
(耕了)

データベースの作成が完了したことを知らせるダイアログが表示されます。「パスワード管理」をク リックします。

38

パスワード管理								
データベース・ユーザー・アカウントのロック/ロック解除/デフォルト・バスワードの変更;								
ユーザー名	アカウントのロック	新加(スワード	バスワードの確認					
548								
SYSTEM								
OUTLN	×							
WMSYS	×							
TSMSYS	×							
DIP	×							
		1	I					
	(ok)	10個) <u>ヘルプ</u> )						

SYS および SYSTEM アカウントのパスワードを指定するダイアログが現れます。それぞれパスワード を入力し、「OK」をクリックしてください。このとき SYSTEM のパスワードとして入力した値は、後 ほど「Oracle 表領域の作成」、「Oracle ユーザ(スキーマ)の作成」、「5. データのインポート」 で使用しますので、必ず記録しておいてください。

# 不要なサービスの停止

Database Configration Assistant 終了後、ExtraView にとって不要な Oracle のサービスを停止します。

サービスの管理画面から、「Oracle*OraHome92*TNSListener」及び「OracleService*EV*」(*OraHome92* お よび *EV* の部分は実際の入力内容に置き換えてください) を除く サービスを全て停止し、無効化して ください。Oracle HTTP Server(Apache.exe)はサービスを停止しても起動していますが、OS の再起 動で立ち上がらなくなります。インストール後に OracleHome92HTTPServer(apache.exe)のコマンド プロンプト画面が上がったままになっている場合もありますが、強制終了していただいて構いません。

	名前 /	識明	状態	マタード	P.9. +
🤹 サービス (D-カル)	<ul> <li>OracleMTSRecoveryService のracleOraHome92Agent         のracleOraHome92ClientCache         OracleOraHome92ClientCache         OracleOraHome92PagingServe         このまま         OracleOraHome92SNMPPeerEncapsulator         OracleOraHome92SNMPPeerEncapsulator         OracleOraHome92SNMPPeerMasterAgent     </li> </ul>	2	MTG	自自手自動 手自動動 手動動	
	GradeOraHome92TN5Listener	/.	開始	自動	1.

¢	ローカル コンピュータ)	OracleOraHome92HTTPServer のプロパティ	? ×
	全般(ログオン)回	<b>汉   依存既</b> 体	
	サービス名	OracleOraHomeR2HTTPServer	
	表示名创业	OracleOraHome52HTTPServer	
	1128月( <u>D</u> ):		-
	実行ファイルのパスの		-
	C:¥oracle¥ora92¥	Apache Apache exe"ritservice	
	スクートアップの 神頭(E):	無効	•
			_
	サービスの状態	停止	
	開結金	(停止(印) 一時停止(印) 再開(印)	
	ここでサービスを開始	するときに連用する ペラメータを指定してください。	
	間はパラメータ(型)		-
		OK キャンセル 通用	(9)

### Oracle 表領域の作成

C:¥ExtraView\_install¥DataBaseにある次のファイルを、C:¥ExtraView¥databaseにコピーします。

- createEvTs.sql

この SQL スクリプトを実行して、Oracle の表領域を作成します。この領域に実際の issue データ (添付ファイルも含む)が格納されますので、あらかじめ十分な空き領域が必要です。一般的なサイズの計算方法については、「ExtraView インストレーション / 構成ガイド」をご参照ください。

実行手順:

40

1. コマンドプロンプトを開き、SQL スクリプトのあるディレクトリへ移動します。

cd C:¥ExtraView¥database

2. 次のコマンドを実行します。

sqlplus system/  $\mathcal{NZD-F}$ >@<SID> @createEvTs

@createEvTs と指定することにより、SQL スクリプト createEvTs.sql を実行することができます。

C:¥ExtraView¥database> <b>dir</b>						
ドライブ c のボリューム ラベルがありません。						
ボリューム シリアル番号は B061-150F です						
C:¥ExtraView¥database のディレクトリ						
2006/03/13 20:04 <dir> .</dir>						
2006/03/13 20:04 <dir></dir>						
2006/12/20 11:34 17,291,264 best_data.dmp						
2005/04/18 16:06 669 createEvTS.sql						
2005/01/26 17:16 213 createExtraView.sql						
2005/10/03 14:59 1,331 Japanese_Application_defaults.sql						
4 個のファイル 8,284,325 バイト						
2 個のディレクトリ 15,829,614,592 バイトの空き領域						
C. XENTRONIOUXdatabagaa galalug gugtom (gugtommu@ou @groatoEuTS						

ここでの <パスワード> は、Oracle データベースの system アカウントに対するパスワードです。 この Oracle データベースが「新規データベースの作成」において新規作成されたものであれば、 その際に設定したパスワードをここで指定します。既存データベースの場合、具体的な <パス ワード> が何であるかは、御社の Oracle システム管理者にお問い合わせください。この実行例 では、system アカウントのパスワードを systempw としています。

<SID> の部分も、「新規データベースの作成」で設定した SID に置き換えます。既存データベー スの場合、具体的な SID が何であるかは、御社の Oracle システム管理者にお問い合わせくださ い。この実行例では、SID を ev としています。

コマンドプロンプト C:¥ExtraView¥database>sqlplus system/systempw@ev @createEvTS SQL\*Plus: Release 9.2.0.1.0 - Production on月Jun 13 11:18:19 2005 Copyright (c) 1982, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved. Oracle9i Standard Edition Release 9.2.0.1.0 - Production With the OLAP and Oracle Data Mining options JServer Release 9.2.0.1.0 - Production に接続されました。 extraviewtslocationに値を入力してください: C:¥ExtraView¥database DATAFILE '&extraviewTsLocation/extraview01.dbf' SIZE 150M IП 3: 新 3: DATAFILE 'C:¥ExtraView¥Oracle¥data/extraview01.dbf' SIZE 150M 表領域が作成されました。 extraviewtslocationに値を入力してください: C:¥ExtraView¥database 旧 3: DATAFILE '&extraviewTsLocation/extraview\_idx01.dbf' SIZE 100M 新 3: DATAFILE 'C:¥ExtraView¥Oracle¥data/extraview\_idx01.dbf' SIZE 100M 表領域が作成されました。 extraviewtslocationに値を入力してください: C:¥ExtraView¥database 旧 3: DATAFILE '&extraviewTsLocation/extraview\_session01.dbf' SIZE 30M 新 3: DATAFILE 'C:¥ExtraView¥Oracle¥data/extraview\_session01.dbf' SIZE 30M 表領域が作成されました。 extraviewtslocationに値を入力してください: C:¥ExtraView¥database DATAFILE '&extraviewTsLocation/extraview\_lob01.dbf' SIZE 150M IП 3: 新 3: DATAFILE 'C:¥ExtraView¥Oracle¥data/extraview\_lob01.dbf' SIZE 150M 表領域が作成されました。 Oracle9i Enterprise Edition Release 9.2.0.1.0 - Production With the OLAP and Oracle Data Mining options JServer Release 9.2.0.1.0 - Productionとの接続が切断されました。

実行すると、表領域を作成するディレクトリの入力を促されますので、あらかじめ決めたディレクトリ・パス(ここでは C:¥ExtraView¥database)を入力します。

表領域は 4 つありますので、ディレクトリ・パスの指定は 4 回行います。4 回とも同じディレク トリ・パスを指定します。

正常終了した場合、最後に「表領域が作成されました」というメッセージが表示されます。

## Oracle ユーザ (スキーマ)の作成

次のファイルを、C:¥ExtraView¥database にコピーします。

- Oracle9iの場合 C:¥ExtraView\_install¥DataBase¥Oracle9i¥createExtraView.sql
- Oracle10gの場合 C:¥ExtraView\_install¥DataBase¥Oracle10g¥createExtraView.sql

この SQL スクリプトを実行して、Oracle のユーザ (スキーマ)を作成します。

実行手順:

- コマンドプロンプトを開き、SQL スクリプトのあるディレクトリへ移動します。
   cd C:¥ExtraView¥database
- 2. 次のコマンドを実行します。

sqlplus system/  $\mathcal{NZD-F} = \mathbb{SID}$ 

@createExtraView と指定することにより、SQL スクリプト createExtraView.sql を実行する ことができます。実行例を以下に示します。

コマンドプロンプト						
C:¥ExtraView¥database> <b>dir</b>						
ドライブ c のボリューム ラベルがありません。						
ボリューム シリアル番号は B061-150F です						
C:¥ExtraVi	ew¥datak	ase のディー	レクトリ			
2006/03/13	20:04	<dir></dir>				
2006/03/13	20:04	<dir></dir>				
2006/12/20	11:34	17,2	91,264 k	pest_data.dmp		
2005/04/18	16:06		669 c	createEvTS.sql		
2005/01/26	17:16		213 c	createExtraView.sql		
2005/10/03	14:59		1,331 J	Japanese_Application_defaults.sql		
	4 個	のファイル		8,284,325 <b>バイト</b>		
	2個	のディレクト	<b>J</b> 15,8	29,614,592 <b>バイトの空き領</b> 域		
C:¥ExtraVie	w¥databa	se> <b>salplus</b>	svstem/	systempw@ev @createExtraView		

ここでの <パスワード> は、Oracle データベースの system アカウントに対するパスワードです。 この Oracle データベースが「新規データベースの作成」において新規作成されたものであれば、 その際に設定したパスワードをここで指定します。既存データベースの場合、具体的な <パス ワード> が何であるかは、御社の Oracle システム管理者にお問い合わせください。この実行例 では、system アカウントのパスワードを systempw としています。

<SID> の部分も、「新規データベースの作成」で設定した SID に置き換えます。既存データベー スの場合、具体的な SID が何であるかは、御社の Oracle システム管理者にお問い合わせくださ い。この実行例では、SID を ev としています。

実行すると、Oracleのユーザ・アカウント extraview (system アカウントとは異なりますのでご 注意ください)に対するパスワード の入力を促されます。自分で決めたパスワードを入力して ください。なお、ここで入力したユーザ・アカウント extraview のパスワードは、後述の「 configuration.properties ( Tomcat の 設 定 ファイル )の 設 定 」に お い て 、 configuration.properties ファイルの中での DB\_PASSWORD の設定値になります。忘れないよう、記録しておいてください。

以下の実行例では、ユーザ・アカウント extraview に対して、パスワードとして extraviewpw を設定しています。

コマンドプロンプト C:¥ExtraView¥database>sqlplus system/systempw@ev @createExtraView SQL\*Plus: Release 9.2.0.1.0 - Production on 水 Apr 13 16:56:36 2005 Copyright (c) 1982, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved. Oracle9i Enterprise Edition Release 9.2.0.1.0 - Production With the OLAP and Oracle Data Mining options JServer Release 9.2.0.1.0 - Production に接続されました。 passwordに値を入力してください: *extraviewpw* 2: IDENTIFIED BY &&PASSWORD 旧 新 2: IDENTIFIED BY extraviewpw ユーザーが作成されました。 権限付与が成功しました。 権限付与が成功しました。 Oracle9i Enterprise Edition Release 9.2.0.1.0 - Production With the OLAP and Oracle Data Mining options JServer Release 9.2.0.1.0 - Productionとの接続が切断されました。

# 4. ExtraView ソフトウェアのセットアップ

### ExtraView 本体のセットアップ

ExtraView 本体のバイナリをセットアップします。この手順については、「ExtraView インストール / 構成ガイド」にも説明が記載されています。

#### 実行手順:

 C:¥ExtraView\_install¥ExtraViewSW の下にある evj ディレクトリを、 C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps 直下にコピーします。

![](_page_48_Figure_5.jpeg)

注)このディレクトリ名 evj は、Oracle のデータベース識別子 ev と混同し易いのでご注意く ださい。これらはまったく別の情報であり、同じ名前でも構いませんし、異なる名前でも構いま せん。

もし、一つのデータベース識別子に対して複数の ExtraView 環境を構築したい場合、すなわち webapps ディレクトリ配下に複数の ExtraView インスタンスを作成したい場合には、東陽テクニ カのテクニカル・サポート (ss\_support@toyo.co.jp) までご連絡ください。

### httpd.conf (Apache の設定ファイル)の設定

Apache を C:¥ExtraView¥Apache2 にインストールしたとすると、このファイルは C:¥ExtraView¥Apache2¥conf ディレクトリ直下に存在します。

このファイルの設定方法については、「ExtraView インストール/構成ガイド」に詳しく記載されて います。「Windows オペレーティング・システムへのサポート・ソフトウェアのインストール」の 「Apache のインストール」の項をご参照ください。

設定例を以下に示します。

![](_page_49_Picture_0.jpeg)

B httpd.conf = ≯E	
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(Q) ヘルプ(E)	
‡ configuration.	^
t Use name-based virtual hosting. NameVirtualHost *	
VirtualHost example: VirtualHost example: Almost any Apache directive may go into a VirtualHost container. The first VirtualHost section is used for requests without a known server name.	
<pre>(VirtualHost #)    ServerAdmin webmaster8dummy-host.example.com    DocumentRoot /www/docs/dummy-host.example.com    ServerName dummy-host.example.com    ErrorLog logs/dummy-host.example.com-error_log    CustomLog logs/dummy-host.example.com-access_log common \$ }</pre>	
JkWorkersFile C:/ExtraView/Apache2/conf/workers.properties	
Alias /evj/ "C:/ExtraViev/Toncat5.0/webapps/evj/" JkMount /evj/ExtraViev/ JkMount /evj/ExtraViev ajp13 JkMount /evj/images/CompanyLogo.gif ajp13	

### configuration.properties (Tomcat の設定ファイル)の設定

このファイルは、C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥configuration 直下に存在します。 このファイルの設定方法については、「ExtraView インストール/構成ガイド」に詳しく記載されて います。「Windows オペレーティング・システムへのサポート・ソフトウェアのインストール」の 「Apache のインストール」の項をご参照ください。

設定例を以下に示します。

- - - -🐻 Configuration.properties — メモ帳 ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(V) ヘルプ(H) ‡ evi production DB\_HOST DB\_SID 127.0.0.1 = ev DB\_USER = extraview DB\_PASSNORD = extraviency DB\_URL = jdbc:oracle:thin:0(DESCRIPTION=(ADDRESS=(HOST=127,0.0.1)(PROTOCOL=tcp) (PORT=1521))(CONNECT\_DATA=(SID=ev\_))) JDBCDriver = oracle.jdbc.driver.OracleDriver 1DB\_URL = jdbc:inetdae7;//db.y 1JDBCDriver= com.inet.tds.TdsDriver = jdbc:inetdae7://db.yourdomain.com: 1483/ev 1 Which DBWS interface to use DBMS\_INTERFACE = com.extraview.dbms.oracle.DracleDbms \$DBMS\_INTERFACE = com.extraviev.dbms.mssql.MssqlDbms ‡ The error los LOG\_FILE\_PATH\_NAME = logs/EYJ.log XML\_LOG\_FLAG = FALSE ‡ Web Application Server Info VEB\_SERVER\_NAME = VS\_A ‡ Templates TEMPLATE\_DIR = templates USER\_TEMPLATE\_DIR = user\_templates

DB\_HOST : データベース・サーバの名前、もしくは IP アドレスです。
DB\_SID : 「新規データベースの作成」で設定したデータベース識別子(ここでは ev) です。
DB\_USER : 「Oracle ユーザ(スキーマ)の作成」で作成したデータベース・ユーザの名前(ここでは extraview)です。
DB\_PASSWORD : 「Oracle ユーザ(スキーマ)の作成」で入力した DB\_USER のパスワード(ここでは extraviewpw)です。
HOST : DB\_HOST と同じです。
SID : DB\_SID と同じです。

### Tomcat の起動パラメータ設定

「ExtraView インストール/構成ガイド」では、catalina.bat を編集することによって、Tomcat 起 動時のパラメータを設定する手順を説明しています。Tomcat 5.0 では、この設定を行うための GUI が用意されており、これを実行することによってより簡単にパラメータを設定することができます。

#### 実行手順:

- 1. [スタート]>[プログラム]> [Apache Tomcat 5.0]> [Configure Tomcat]を実行します。
- 2. Apache Tomcat Properties が起動しますので、Java タブを開きます。
- 3. Initial memory pool に **128**(MB)、Maximum memory pool に **256**(MB)を設定します。 (「ExtraView インストール/構成ガイド」では、-Xms96m -Xmx512m という記述になってい ますが、それぞれ 128、256と設定することをお勧めします。)
- 4. Java Options の最後の行に、-Dfile.encoding=UTF-8 という記述を追加します。
- 5. OK をクリックします。

Apache Tomcat Pr	operties	;			[
General Log On Loggi	ng Java	Starti	up Shutd	lown	
🔲 Use default					
Java Virtual Machine:					
C:¥ExtraView¥j2sdk1.4	1_06¥jre¥	bin¥serv	er¥jvm.dll		
Java Classpath:					
C:¥ExtraView¥j2sdk1.4	1_06¥jre¥	lib¥tools	.jar;C:¥Ex	traView¥Tor	mcat_5_0
Java Options:					
-Dcatalina.home=C:¥E: -Djava.endorsed.dirs= -Djava.io.tmpdir=C:¥E: -Dfile.encoding=UTF-8	ktraView¥T C:¥ExtraVi ktraView¥T	omcat_5 ew¥Tom omcat_5	5_0 cat_5_0¥c 5_0	ommon¥end	lorse
Initial memory pool:	128			MB	
Maximum memory pool:	256			MB	
Thread stack size:				КВ	
	OK		キャンセノ	V (	適用( <u>A</u> )

### BatchMail のセットアップ

ExtraView から電子メールの送信を行うようにするには、BatchMail プログラムをセットアップしま す。BatchMail をセットアップすることによって、issue の追加、更新を行った際、特定のユーザに 対して自動的に電子メールを送信することができるようになります。

BatchMail の具体的なセットアップ手順については、「ExtraView インストール/構成ガイド」をご参照ください。

# 5. データのインポート

#### best\_data のインポート

C:¥ExtraView\_instal1¥DataBaseにある次のファイルを、C:¥ExtraView¥databaseにコピーします。

- best\_data.dmp (ExtraView のバージョンによってファイル名は異なる可能性がありますが、拡 張子は必ず.dmp です。)

このファイルを使用して、ExtraView 社が提供する best\_data をインポートすることができます。この操作は、オプションです。

best\_data とは、「不具合」、「ネットワークへの要求」、「資産」などのビジネスエリアをはじめ、 ユーザや各種リストなどのメタデータを事前に構築するための情報ファイルです。これを用いること により、ゼロの状態からの構築よりも簡単に、ExtraView 環境を構築することができます。

実行手順:

1. コマンドプロンプトを開き、使用する dmp ファイルのあるディレクトリへ移動します。

cd C:¥ExtraView¥database

2. 次のコマンドを実行します。

imp system/</i> /( $\mathcal{X}\mathcal{D}-\mathcal{F}$ >@<SID> file=best\_data.dmp fromuser=best\_data touser=extraview commit=y

(コマンドが長いため2行になっていますが、実際は1つのコマンドです。)

ここでの <パスワード> は、Oracle データベースの system アカウントに対するパスワードです。 この Oracle データベースが「新規データベースの作成」において新規作成されたものであれば、 その際に設定したパスワードをここで指定します。既存データベースの場合、具体的な <パス ワード> が何であるかは、御社の Oracle システム管理者にお問い合わせください。この実行例 では、system アカウントのパスワードを systempw としています。

<SID> の部分も、「新規データベースの作成」で設定した SID に置き換えます。既存データベー スの場合、具体的な SID が何であるかは、御社の Oracle システム管理者にお問い合わせくださ い。この実行例では、SID を ev としています。

コマンドプロンプト C:\ExtraView\database>imp system/systempw@ev file=best\_data.dmp fromuser=best\_data touser=extraview commit=y Import: Release 9.2.0.1.0 - Production on 水 May 31 18:17:04 2006 Copyright (c) 1982, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved. 接続先: Oracle9i Enterprise Edition Release 9.2.0.1.0 - Production With the OLAP and Oracle Data Mining options JServer Release 9.2.0.1.0 - Production エクスポート・ファイルはEXPORT: V09.02.00によってダイレクト・パス経由で作成されました JA16SJISキャラクタ・セットおよびUTF8 NCHARキャラクタ・セットでインポートが完了しました インポート・サーバーではUTF8キャラクタ・セットを使用します(キャラクタ・セットの変換可能)。 エクスポート・クライアントではUTF8キャラクタ・セットを使用します(キャラクタ・セットの変換可 能)。 . LANGUAGEMASTERのオブジェクトをEXTRAVIEWにインポートしています ..表 577行**インポートされました。** "ALLOWED\_FUNCTIONS"をインポートしています "ALLOWED\_LOCALE"をインポートしています ..表 2行インポートされました。 ..表 0行インポートされました。 "ALLOWED\_VALUES"をインポートしています ..表 "ALLOWED\_VALUE\_TYPE"をインポートしています 0行インポートされました。 "APPLICATION\_DEFAULT"をインポートしています 206行インポートされました。 ..表 . . . . . . . . . Oracle9i Enterprise Edition Release 9.2.0.1.0 - Production With the OLAP and Oracle Data Mining options JServer Release 9.2.0.1.0 - Productionとの接続が切断されました。

実行すると、いくつもの「xxxx をインポートしています」というメッセージが、コマンドプロン プトに出力されます。

正常終了した場合、最後に「インポートは警告なしで正常終了しました。」というメッセージが 表示されます。

# 6. その他の設定

### ExtraView ライセンスの設定

次のファイルを使用します。このファイルは、お客様が ExtraView をご購入になってから数日後に、 東陽テクニカのテクニカル・サポート(ss\_support@toyo.co.jp)がメールでご提供致します。

- license.xml

実行手順:

1. ライセンスファイルを Tomcat の evj ディレクトリ以下の data ディレクトリ (以下 data ディレ クトリ)にコピーします。

C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data

2. data ディレクトリの中にある installKeyWindows.bat を右クリックし、編集を選択します。メ モ帳の画面が表示されます。

![](_page_55_Figure_8.jpeg)

3. メモ帳の画面で Java SDK のパス、Tomcat のパスと Tomcat の evj パスを変更します。

🐻 installKeyWindows.bat – 🗚	: <b>45</b>		×
ファイル(E) 編集(E) 書式(0) 表示	W 1.17H		
REM ************************************	twwwwwwwwtREM Edit t A_HOMETREM TOMCAT_ TOMCAT_ BASE LICENSETecho off1 06 C:¥ExtraView¥Tomcat5	his file to fill in your1REM local HOME1REM EV_BASE1REM LICENSE FILE1REM1 USAGE:1REM installKey.bat installKey.bat .0 <u>C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥ev</u> i Tomcat の evj のパス	<

52

この画面では次のように設定しています。

Java SDKのパス : C:¥ExtraView¥j2sdk1.4.1\_06 Tomcatのパス : C:¥ExtraView¥Tomcat5.0 Tomcatのevjのパス : C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj

- 4. メモ帳を保存して、終了します。
- instal IKeyWindows.bat をダブルクリックして実行します。
   実行例を以下に示します。

コマンドプロンプト C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM \* \*\*\*\* C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM Edit this file to fill in y our C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM local values for C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM JAVA\_HOME C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM TOMCAT\_HOME C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM EV\_BASE C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM LICENSE FILE C: ¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM \* \*\*\*\*\*\* C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM USAGE: C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>REM installKey.bat JAVA HOME TOMCAT HOME EV BASE LICENSE C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>echo off C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>C:¥ExtraView¥j2sdk1.4.1\_06¥bin¥ java -classpath C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥ojdbc14.jar;C:¥e xtraview¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥classes12.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0 ¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥SesameUtil.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥activation.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥mail.jar; C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥cryptix32.jar;C:¥ExtraView¥Tomca t5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥com.microstar.xml.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webap ps¥evj¥WEB-INF¥lib¥Sprinta2000.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥l ib¥Sprinta.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥jtds-1.2.jar;C:¥E xtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥com.mortbay.jetty.jar;C:¥ExtraView¥T omcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥com.sun.net.ssl.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥web apps¥evj¥WEB-INF¥lib¥crimson.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib ¥domsdk.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥domsdksrc.jar;C:¥Ext raView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥SesameStevesoft.jar;C:¥ExtraView¥Tomca t5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥w3cdom1.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB -INF¥lib¥xalan.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥lib¥xerces.ja r;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥jaxp.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5. 0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥parser.jar;C:¥ExtraView¥j2sdk1.4.1\_06¥lib¥tools.jar;C :¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥lib¥kcServlet.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat 5.0¥common¥lib¥servlet.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥lib¥common¥servlet.jar;C:¥Ext raView¥Tomcat5.0¥common¥lib¥servlet-api.jar;C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥ WEB-INF¥lib¥evj5023-63.jar com.ExtraView.util.dbpatches.AppDefaultImport -f lic ense.xml <====entering main method of AppDefaultImport====> AppDefaultImport constructor Attempting to Open Log File: C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥logs¥EV J.log ADI: back from preprocess ADI: Finished importing data <====finished AppDefaultImport===> C:¥ExtraView¥Tomcat5.0¥webapps¥evj¥WEB-INF¥data>pause 続行するには何かキーを押してください . . .

実行すると、ライセンスが設定されます。ライセンスが正しく設定されたかどうかは、 ExtraView へのサインオンができるようになった後に、 [Administration] > [ユーザ] > [ユーザ・アカウント・メンテナンス]のページで確認することができます。

## 日本環境のデフォルト設定

C:¥ExtraView\_install¥DataBaseにある次のファイルを、C:¥ExtraView¥databaseにコピーします。

- Japanese\_Application\_defaults.sql

この SQL スクリプトを実行して、日本語環境において ExtraView を使用する際に最適なデフォルト値を、ExtraView データベースに設定します。

#### 実行手順:

1. コマンドプロンプトを開き、SQL スクリプトのあるディレクトリへ移動します。

cd C:¥ExtraView¥database

 database ディレクトリの中にある Japanese\_Application\_defaults.sql を右クリックし、編集 を選択します。メモ帳の画面が表示されます。

![](_page_58_Figure_10.jpeg)

3. メモ帳の画面で DOMAIN と SITE\_URL の値を変更します。

![](_page_59_Picture_1.jpeg)

DOMAINに設定する値は、ExtraViewサーバが所属しているドメイン名とします。

例)set value = `.toyo.co.jp'

SITE\_URLに設定する値は、ExtraViewサーバを示す完全なURLとします。

例)set value = `https://www.toyo.co.jp/evj'

ここでの設定は、SSLを利用してExtraViewを社外に公開する場合必要になります。

- 4. メモ帳を保存して、終了します。
- 5. 次のコマンドを実行します。

sqlplus extraview/<// $\mathcal{NZD-F}$ >@<SID> @Japanese\_Application\_defaults

@Japanese\_Application\_defaults と指定することにより、 SQL スクリプト Japanese\_Application\_defaults.sqlを実行することができます。実行例を以下に示します。

コマンドプロンプト C:¥ExtraView¥database>sqlplus extraview/extraviewpw@ev @Japanese\_Application\_defaults SQL\*Plus: Release 9.2.0.1.0 - Production on 水 May 31 18:17:33 2006 Copyright (c) 1982, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved. Oracle9i Enterprise Edition Release 9.2.0.1.0 - Production With the OLAP and Oracle Data Mining options JServer Release 9.2.0.1.0 - Production に接続されました。 1行が更新されました。 18行が更新されました。 コミットが完了しました。 Oracle9i Enterprise Edition Release 9.2.0.1.0 - Production With the OLAP and Oracle Data Mining options JServer Release 9.2.0.1.0 - Productionとの接続が切断されました。

ここでの <パスワード> は、Oracle データベースの extraview アカウントに対するパスワードで す。「Oracle ユーザ(スキーマ)の作成」で設定したパスワードをここで指定します。system アカウントおよびそのパスワードではありませんので、ご注意ください。この実行例では、 extraview アカウントのパスワードを extraviewpw としています。 <SID> の部分は、「新規データベースの作成」で設定した SID に置き換えます。具体的な SID が何であるかは、御社の Oracle システム管理者にお問い合わせください。

実行すると、ExtraViewの動作設定に対して、日本語環境向けの各種デフォルト値が設定されます。具体的な設定内容は、次のとおりです。

動作設定のパラメータ	值
AUTO_SIGNOFF_ON_USER_EXIT	YES
DEFAULT_ATTACHMENT_CHARSET	Shift_JIS
DEFAULT_LANGUAGE	ja
DEFAULT_REGION	JP
DEFAULT_TIMEZONE	JST
SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS	12
DATE_FORMAT	yyyy/MM/dd HH:mm:ss
DB_TIMEZONE	JST
EMAIL_CHARSET	IS0-2022-JP
USERNAME_DISPLAY	LAST

# 7. 付録

#### ExtraView 環境のバックアップ

ExtraView 環境をバックアップするには、Oracle データベースを dmp ファイルヘエクスポートし、その dmp ファイルをバックアップします。

実行手順:

コマンドプロンプトを開き、バックアップ対象である Oracle 表領域のファイルが存在するディレクトリへ移動します。

cd C:¥ExtraView¥database

2. 次のコマンドを実行します。

exp system/<*パスワード*>@<*SID>* file=<*ファイル名.dmp>* compress=n consistent=y owner=<*所有ユーザ*>

(コマンドが長いため2行になっていますが、実際は1つのコマンドです。)

エクスポートする dmp ファイル <ファイル名.dmp> は自由な名前付けで構いませんが、拡張子は dmp としてください。

<所有ユーザ> には、「Oracle ユーザ(スキーマ)の作成」で設定したユーザ名を指定します。 この実行例では、extraview となります。

ここでの <パスワード> は、Oracle データベースの system アカウントに対するパスワードです。 この Oracle データベースが「新規データベースの作成」において新規作成されたものであれば、 その際に設定したパスワードをここで指定します。既存データベースの場合、具体的な <パス ワード> が何であるかは、御社の Oracle システム管理者にお問い合わせください。この実行例 では、system アカウントのパスワードを systempw としています。

<SID> の部分も、「新規データベースの作成」で設定した SID に置き換えます。既存データベー スの場合、具体的な SID が何であるかは、御社の Oracle システム管理者にお問い合わせくださ い。この実行例では、SID を ev としています。

compress および consistent には、固定でそれぞれ n および y を指定します。

exp コマンドを実行する際は、NLS\_LANG 環境変数の値を事前に "American\_America.UTF8" に設 定します。

コマンドプロンプト C:¥ExtraView¥database¥v502>**set NLS\_LANG=American\_America.UTF8** C:\ExtraView\database\v502>exp system/systempw@ev file=test502.dmp compress=n consistent=y owner=extraview Export: Release 9.2.0.1.0 - Production on Tue May 30 09:40:08 2006 Copyright (c) 1982, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved. Connected to: Oracle9i Enterprise Edition Release 9.2.0.1.0 - Production With the OLAP and Oracle Data Mining options JServer Release 9.2.0.1.0 - Production Export done in UTF8 character set and UTF8 NCHAR character set About to export specified users ... . exporting pre-schema procedural objects and actions . exporting foreign function library names for user EXTRAVIEW . exporting PUBLIC type synonyms . exporting private type synonyms . exporting object type definitions for user EXTRAVIEW About to export EXTRAVIEW's objects ... . exporting database links . exporting sequence numbers . exporting cluster definitions . about to export EXTRAVIEW's tables via Conventional Path ... . . exporting table ALLOWED\_FUNCTIONS 590 rows exported . . exporting table ALLOWED\_LOCALE 2 rows exported 0 rows exported . . exporting table ALLOWED\_VALUES . . exporting table ALLOWED\_VALUE\_TYPE 0 rows exported . . . . . . . . exporting table USER GLOBAL 49 rows exported . . exporting table USER\_SESSION 1 rows exported . exporting synonyms . exporting views . exporting stored procedures . exporting operators . exporting referential integrity constraints . exporting triggers . exporting indextypes . exporting bitmap, functional and extensible indexes . exporting posttables actions . exporting materialized views . exporting snapshot logs . exporting job queues . exporting refresh groups and children . exporting dimensions . exporting post-schema procedural objects and actions . exporting statistics Export terminated successfully without warnings.

実行すると、いくつもの「exporting xxxxx」というメッセージが、コマンドプロンプトに出 力されます。

正常終了した場合、最後に「Export terminated successfully without warnings.」というメッ セージが表示されます。

3. 通常のバックアップ手順にしたがって、エクスポートした dmp ファイルをバックアップします。

### ExtraView 環境のリストア

ExtraView 環境をリストアするには、バックアップした dmp ファイルを Oracle データベースヘイン ポートします。

実際の手順は、「新規データベースの作成」「Oracle 表領域の作成」「Oracle ユーザ(スキーマ) の作成」「best\_data のインポート」をご参照ください。「best\_data のインポート」で示した手順 の中の dmp ファイル名を、バックアップした dmp ファイル名に置き換えることによって、ExtraView 環境のリストアを実行することができます。